

日本テレビ情報エンタテインメント局
町 亞聖<まちあせい>さんにお話を伺いました
★矢野理事長の突撃インタビュー★



まち あせい
埼玉県出身。立教大学文学部卒業後、日本テレビに入社。7ヶ月を経て報道部記者に、現在は情報エンタテインメント局「The サンデーNEXT」を担当。

日曜日の朝、日本テレビ系「The サンデーNEXT」のアシスタント・プロデューサーを努めながら番組内で野村克也元監督のインタビューアーもしている町亞聖<まちあせい>さん、アナウンサーとしても活躍されておりましたのでご存知の方も多し。町さんは18歳から10年間、お母様の介護を経験されました。日本テレビ入社後、その経験を生かし報道記者としても医療・介護問題に積極的に取り組んでいらっしゃいます。

矢野：町さんのご活躍、テレビを通して拝見しています。さて、早速ですが町さんはジャーナリストのお立場で介護保険のこの10年を振り返りどのような感想をお持ちですか。

町：様々なことがありました。当初お年寄りに出来ることだけでなく「出来ない事は？」と問いかける「要介護認定」のあり方に疑問を感じました。ただし何らかの「ものさし」は必要です。全てのお年寄りが必要なサービスを受けられるよう実態に即した認定を行って欲しいと思います。また、本来家族介護の苦しみを開放するための介護保険でありながら、逆に昨今はケアワーカーなど介護者の心の問題がクローズアップされています。更に、数年前叫ばれた「介護予防」、流行のように介護施設にフィットネスマシンが導入されましたが、予防も確かに大事ですが「最優先すべきことなのか？」と思いました。その他、医療と介護の連携等様々な問題が浮き彫りになりました。取材を通して感じるのは介護される人の視線で問題解決に当たること、それと、介護者教育、質の向上です。

矢野：事業者のモラルの問題もありましたね。介護者の質の問題と併せ、事業者自身も襟を正す必要があると思います。

町：介護の世界に入ってくる若い世代に、処遇や待遇は勿論、介護することの喜びを与えてくれるような、事業者やグループホームが必要だと思っています。

矢野：私たちがグループホームという介護形態の中で理想を目指したいとおもっています。

町：私自身が介護を続けてきたこともあり、本来介護は「出来れば在宅で」というのが私の考えですが、介護保険制度が始まった当初からグループホームが今後の介護の「鍵」を握ると注目されてきました。様々な介護現場を取材していますが、少人数、家庭的な雰囲気ของกลุ่มホームはひとつ理想の「介護の形」ではないかと思っています。それだけに先日の札幌での火災は残念でなりません。

矢野：その通りです。「行政」の指導のほかにも「ハード」「ソフト」両面で課題は山積です。

町：やはり介護される人の立場に立って考えていかないと・・・、「老いるとは」「呆ける」とはどういうことなのか、行政も含め介護に関わるすべての人たちが、原点を見つめなおして考えていかないと、理想には近づけないと思います。

矢野：さて、町さんの介護経験についてお話を伺いましょう。

町：私が高校3年生の冬、母がくも膜下出血で倒れ、手術で一命は取りとめたものの半身不遂と言語障害、そして知能の低下もありました。介護保険は勿論、情報も少なかった時代ですから、全てが手探りでした。当時、弟が中学3年、妹は小学6年の育ち盛りの時期。介護と共に主婦、学生と一人三役をこなしました、大学の講義の最中に、その日の献立を考える毎日でした。母は仕事をしながらよくやっていたなと思いました。

矢野：青春の真っ只中に、本当に大変でした。

町：全然そうは思っていないのです。あの経験が無ければ今の道には進んでいなかったと思います。家族皆で母の介護をすることで家族の絆も深まったと思いますし、明るく介護をしていました。

町：でも私は母に対して厳しかったかもしれません。生活を共にしていくわけですから「出来ることはしてもらおう」という方針で臨んでいました、病院でのリハビリはあくまで機能訓練で、やはり生活をするためのリハビリは生活の中でと、洗濯物をたたむところから始め、やがては茶碗を洗ったり、車椅子に乗りながら掃除機を操るまで回復しました。そんな母が5年ほど経ったとき「化粧をしたい」と言い出したときは本当にびっくりしました。

矢野：それが介護で最も大切なこと、「してあげる」はその人の為になりません。

町：私は母のおかげで多くの大切なことに気づきました。できれば「皆さんには介護が必要になる前に知って欲しい」という思いがあります。例えば駅前の迷惑駐車。健常者にはわかりませんが、車椅子が必要になって初めて「迷惑」ということが分かる。一人一人が「もし自分だったら」と考えることで少しでも住みやすい、優しい社会になるのではと思います。そう言うことを伝えていくのも私の使命だと考えています。

矢野：最後に介護を続けている皆さんに町さんからメッセージをお願いいたします。

町：全てを自分で背負わず、ある程度心に余裕をもつことが必要。自分に余裕がないと優しい介護は出来ないと思います。その為に介護保険を含め利用できるものは利用することも必要ですね。それと、今まで出来たことが、出来なくなってくるわけですから「介護される人」を思い遣る心を忘れないでください。

矢野：今日はどうもありがとうございました。これからも番組を通じて介護や医療に関わる人、そして視聴者との架け橋になってください。



町さんと当社の矢野理事長

グループホーム開設への道 ④

ご入居者様募集受付開始！！

5月川崎市宮前区菅生に新築グループホーム「バナナ園生田の杜」オープン！！

たいへんお待たせいたしました。年明けからこの BANANA NEWSでもお知らせしているバナナ園グループにとって7番目のグループホーム「バナナ園 生田の杜」の入居受付がいよいよ開始されます。工事の方も既に内装工事もフィニッシュ段階を迎えており、4月の中旬からは現地での見学も可能となります。

所在地：川崎市宮前区菅生 2丁目 20-3

名称：バナナ園 生田の杜

利用定員：18名＜全室個室：1F 9名 2F 9名＞

敷地面積：400㎡/延床面積：457㎡

居室概要：全室冷暖房・スプリンクラー完備

入居基準：要支援2以上で認知症の診断のある高齢者、共同生活が営める方、自傷他害のない方、入居時において川崎市内に住民票のある方。

■施設利用料：月額 154,000円～159,000円

＜内訳＞食材費：36,000円

居室費：78,000円～83,000円

共益費：40,000円

■入居時一時金：250,000円

※この他介護度に応じた介護保険自己負担分が必要となります。

①バス通りに面した3方路に囲まれた地で、耐震、防火構造の鉄筋コンクリート造りの万全なる建物です。広々とした屋上も魅力で、1年中太陽のふりそそぐ環境で生活が可能です。

②小田急線「溝の口」「向ヶ丘遊園」、東急田園都市線「宮前平」「あざみ野」からバス、「聖マリアナ医科大学グランド前」下車都内からも抜群のアクセス。

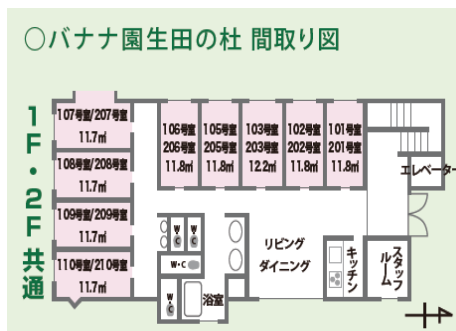
③定員18名、延べ床面積は450平米を超えます、更にゆとりのLDKは40平米以上、居室ももちろん広々です。トイレも4ヶ所確保、プライベートに配慮した落ち着いた生活が可能です！

④10年以上の認知症介護の実績、バナナ園グループの経験豊富なスタッフが24時間体制で安心サービスを提供いたします。

⑤食事にもこだわります。岩手県胆沢郡農家直送の減肥農薬使用のお米に、毎日手作りのお食事。食生活も安心です。



★完成予定図＜平成22年5月入居開始＞★



バナナ園グループ(各施設) 一斉防火・防災点検実施

3月13日の札幌のグループホーム「みらい とんでん」での火災を受け、バナナ園グループのグループホーム各施設では、一斉に火災防止のための緊急会議や再点検を行いました。更に管轄消防署の点検を受け、防火体制の安全確認がなされました。今後バナナ園グループの各施設では法令で定められた防火基準・訓練の遵守、励行に加え、更なる安全体制の確立のため、「自動火災報知設備」「火災通報装置」＜施設から最寄の消防へダイヤルに通報が流れるシステム＞を導入いたします。

昨年5月川崎市臨港消防署及び消防庁と地域の皆さんと共に避難訓練を実施した「川崎大師バナナ園」の藤原施設長は「まずは非常事態を起こさないための細心の注意、防災意識が重要、更に、もらい火や天災に対する訓練も必要と思う。」と語ってくれた。バナナ園グループでは各施設と地域との連携強化や避難訓練の拡大に取り組む方針を決め、更なる防火・防災体制の確立に努めます。



消防のスタッフを入居者に見立て、避難の実地訓練を行う。

昨年5月消防及び地域の皆さんとの合同の訓練を行った川崎大師バナナ園の様



バナナ園グループ

- グループホーム「川崎大師バナナ園」☎ 044-280-2386
- グループホーム「バナナ園」☎ 044-588-0645
- グループホーム「第二バナナ園」☎044-587-1773
- 高齢者ケア付住宅「IDSバナナ園」☎044-580-3210
- グループホーム「バナナ園ほりうち家」☎044-722-5361
- グループホーム「のんびりーす」☎044-797-3314
- グループホーム「バナナ園生田ヒルズ」☎044-911-1599
- デイサービスバナナ園☎044-588-0890
- あいケアサービス☎044-433-4651
- すこやかケアプランセンター☎044-411-3120

グループホーム空室情報

空室情報、入居に関するお問い合わせは各施設もしくは総合案内 ☎044-433-4651 までご連絡下さい



月刊 MONTHLY BANANA NEWS (毎月1日発行)
通算第64号 編集：社会福祉法人 ばなな会
川崎市中原区上丸子八幡町 816 ☎044-433-4651
＜HP＞ <http://www.bananaen.com/>